
2007年度 研究業績

➤ 周 瑋生

<発表論文>

- 1) FU Chuan, PAN Jie, MU Xin-l, FU Yang-wu, CHEN Shu-hong, ZHOU Weisheng, ECOLOGICAL RISK ASSESSMENT OF HEAVY METAL POLLUTION IN SEDIMENTS FROM THE WANZHOU SECTION OF THE YANGTZE RIVER, Resources and Environment in the Yangtze Basin, Vol.16 No.2, P.236-239, 2007.
- 2) 田村晃伸、近藤康彦、穆 海林、周 瑋生、中国都市家庭における電力需要に関する検討、エネルギー・資源学会誌、Vol.28, No.2、p.44-50、2007.3.
- 3) Zhou Weisheng ,Mu Hailin ,Nakagami Kenichi, Prediction on Energy Consumption and Emissions of CO₂, SO₂ and NO_x by Optimal Evaluation of CDM Introduction in China, Journal of Policy Science Vol.1,pp.19-33, 2007.
- 4) 周 瑋生、国際的視点での地球温暖化防止活動の事例—中国の炭鉱ガスの開発、エコネタ、大分県地球温暖化防止センター、2007.8.
- 5) 王 舟、小幡範雄、周 瑋生、日中比較からみた中国の自動車リサイクル事業の現状と課題、政策科学、15-1、p.83-97、2007.10.
- 6) 鈴木芳幸、小泉國茂、周 瑋生、グローバルリサイクルシステムの輸出抵抗感に関する評価研究—選択実験によるリサイクル行動評価と心理的影響—、環境技術学会誌、2008.6(掲載決定)
- 7) 周 瑋生、魯 芳、仲上健一、中国におけるアスベスト使用の現状に関する研究、政策科学、15-1、p.83-97、2008.4.
- 8) 村田晃伸、近藤康彦、周 瑋生、中国農村家庭における電力消費に関する一検討、掲載予定。
- 9) 周 瑋生、低炭素社会に向けた日中協力のあり方、省エネルギー、財団法人省エネルギーセンター、p.17、Vol.60 No.4 2008.4.
- 10) 周 瑋生、ポスト京都における中国の気候対策—ローカルとグローバルの統合、環境研究、財団法人日立環境財団、No.149、2008.5(掲載決定)

<学会等発表>

- 1) 周 瑋生、「気候変動問題における中国の取り組み」、財務省財務総合政策研究所・近畿財務局・ADB、環境問題と経済・財政の対応に関する国際シンポジウム、2007.2.28(京都)
- 2) 周 瑋生、「エネルギー・環境から 2020 年の中国への展望」、立命館孔子学院第6回敬学講座：和諧(調和)社会の構築と 2020 年の中国—その目標と課題、立命館孔子学院、京都大学京都サステイナビリティ・イニシアチブ(KSI)、2007 年 3 月 26

研究業績一覧 2007.4.1~2008.3.31

- 3)「中国気候変動対策国家方案の概要と今後の見通し」、立命館孔子学院第7回敬学講座: 京都議定書採択10周年を記念して、ポスト京都議定書における中国の行方、立命館孔子学院、サステイナビリティ学連携研究機構(IR3S)、京都サステイナビリティ・イニシアティブ(KSI)、立命館サステイナビリティ学研究中心(RCS)、2007.7.6。
- 4)「中国の交通分野における環境負荷とCDM適応の可能性」、第6回途上国道路輸送CO2排出抑制政策に関する研究会、運輸政策研究機構国際問題研究所、2007.5.7
- 5)「持続可能な発展と戦略イノベーション」、国連UNEP、中国環境省主催、招待講演、2007.6。
- 6)「エネルギー・環境分野における日中戦略互惠関係」、中国・山東省環境ビジネス交流会、基調講演、山東省環境保護局、2007.7.1(大阪ATC)
- 7)「エネルギー環境からみた日中協力の可能性」、エコビジネスフォーラムエコビジネスフォーラム、おおさかATC グリーンエコプラザ、2007.4
- 8)「世界エネルギー情勢と展望」、浙江大学エネルギー機会学院特別講演会、2007.5.21
- 9)「中国における環境保全に対する民間の取り組みについて」、地球環境関西フォーラム「アジアの経済成長と環境・エネルギー部会」、2007.7.25、招待講演。
- 10)「世界のエネルギー情勢と気候対策」、大連理工大学エネルギー研究院主催、特別講演、2007.8.24(中国大連)
- 11)「中国における地球温暖化対策の現状と展望」、立命館孔子学院「中国理解講座」、2007.10.13
- 12)「気候変動の最前線」、京都洛中ロータリークラブ、特別講演、2007.11.27
- 13)「中国の環境問題の諸相—その影と光」、立命館土曜講座、2008.3.1
- 14)「調和型モデル構築日中協力事業構想」、立命館大学・中国浦東幹部学院、第2回循環型経済社会の理論と実践—成長モデルから和諧モデルへ」国際シンポジウム、2008.3.27(京都)

<科研費等の取得・申請実績リスト>

【2007年度交付実績】

科研費： 基盤研究 A / 分担者

「BRICs諸国の潜在経済成長力と資源・環境に関わる持続可能性の比較研究」

【2008年度申請実績】

科研費： 基盤 B(海外)「中国におけるサステイナブルな低炭素社会の実現に関する研究」 2008-2010
588万円(初年度)

環境省・地球環境研究総合推進費： 分担者 「都市・農村の地域連携を基礎とした低炭素社会のエコデザイン」(交付確定)

旭硝子財団・課題研究助成： 分担者

➤ 小幡 範雄

<論文>

- 1)「アスベスト対策の不作為と対策の遅れ」立命館大学・政策科学別冊、P13-P27、2008年3月

<科研費等の取得・申請実績リスト>

【2007 年度交付実績】

科研費： 基盤研究 B 「アスベスト災害・公害の政策科学」

➤ 高尾 克樹

<著書>

1) キャップ・アンド・トレードー排出権取引を中心とした環境保護の政策科学ー

立命館大学政策科学叢書第 7 巻、有斐閣

<論文>

1) “Policy Mix of Emissions Trading, Taxation, and Direct Regulation—Lessons of the UK Climate Change Programme—”, J. of Policy Science, No. 2 (2007, in print) 立命館大学政策科学会

➤ 佐和 隆光

<発表論文>

1) “Still the clean-growth model” The Japan Times 2007/02/12

2) 「調和社会」の再構築 『経』2007 年 2 月 pp.44-47

3) “Dealing with climate change” The Japan Times 2007/03/13

4) 「気候変動問題に欠かせぬ二つの「策」」 『経』2007 年 3 月 pp.44-47

5) 「地球を救う一歩 市民と共に 環境意識を高めたい」(シンポジウム『持続可能で「豊か」な社会を』)読売新聞 2007/3/27

6) 「近未来のエネルギーの多様化を模索する」 『ニューライフ』2007 年 5 月 pp.24-29

7) 「気候変動対策が報われる世界に」 『エネルギーフォーラム』2007 年 5 月 p19

8) 「環境と経済の両立は可能 温暖化する地球を守るため、具体的な対策が急がれる」 『潮』2007 年 6 月 pp.78-83

9) 「制度化」された経済学の功罪 『学術の動向』2007 年 5 月号 pp.84-85

10) 「米中印参加の道筋つけよ」日本経済新聞 経済教室 2007 年 5 月 31 日

11) 「これからの『豊かさ』とは—21世紀の科学技術と社会」(信州岩波講座—講演要旨 2006/08/06) 『第8回 信州岩波講座講演要旨・対談記録集』pp.9-11 2007 年 7 月

12) 「和諧社会」実現に向けた中国の取り組み 『経』2007 年 7 月号 pp.44-47

13) “Next stage of emission cuts” The Japan Times 2007/07/09

14) 「どうなる? 日本の原子力発電」 『経』2007 年 9 月号 pp.44-47

15) 「ポスト京都議定書の国際的枠組み~米中印の参加を巡って」(第 29 回定例セミナー 2007/07/26) 『月刊フィランソロピー』2007 年 9 月号 no.303 p21

16) 「温暖化は本当に防げるのか」 『環境会議』2007 年秋号 2007/09/05 pp.26-31

17) “Off the nuclear mainstream” The Japan Times 2007/09/11

18) “Feasible cuts in emissions” The Japan Times 2007/11/19

研究業績一覧 2007.4.1~2008.3.31

- 19)「低炭素社会作りのシナリオ」『経』2007年11月号 pp.44-47
- 20)「資源枯渇と温暖化防止」毎日新聞 2007年12月3日
- 21)「グローバルセッションフォーラム2007」(ゴフバチョフ氏、メドウズ氏、周大地氏)2007/12/16 京都新聞
- 22)「持続可能で豊かな社会を目指して」『NETT』No.60 2008年1月号 pp.2-10
- 23)「ポスト京都」に向けた環境問題への新たな取組」『経』2008年1月号 pp.44-47
- 24)「21世紀のキーワードは「サステナビリティ」」『ENN』VOL.193 2008年1月10日 pp.41-43
- 25)「排出権取引 制度設計を(月曜評論)」信濃毎日新聞 2008年3月3日
- 26)「エネルギー効率改善に加え温暖化ガス排出削減を」(インタビュー“ポスト京都”元年・地球温暖化防止の針路を問う④)週刊ダイヤモンド 2008年2月9日 p113
- 27)「(国際会議「低炭素社会シナリオ 2050」と日中印の役割)ポスト京都議定書に向けての日中印の専門家が共同声明を発表」週刊ダイヤモンド 2008年2月16日 pp.116-119
- 28)「(J-POWER特別対談)地球温暖化抑止に不可欠な長期ビジョンと先進の取り組み」週刊ダイヤモンド 2008年2月16日 pp.120-123

<著書>

- 1)『この国の未来へー持続可能で「豊か」な社会ー』ちくま新書 2007年 205ページ
- 2)『入門サステナビリティ学:循環経済と調和社会へ向けて』ダイヤモンド社、2008年 228ページ

➤ 近藤 久美子

<発表論文>

- 1)「目的保険の意義と可能性ー気候変動緩和策・適応策と企業経営ー」2007、立命館経営学 第46巻 第4号 pp.33-pp.51

➤ 赤堀 次郎

<発表論文>

- 1) 赤堀次郎, 泉正己, 渡辺信三 “ノイズ, 確率的流れ, E0 半群” 数学 (2007/07), 59/3, 243--263
- 2) Jirô Akahori, Chihiro Uenishi and Kouji Yano “Stochastic equations on compact groups in discrete negative time”, Probability Theory and Related Fields, (2007/05), 10.1007/s00440-007-0076-z

<書籍>

- 1) Jiro Akahori, Shigeyoshi Ogawa and Shinzo Watanabe “Stochastic Processes and Applications to Mathematical Finance”, Proceedings of 6th Ritsumeikan International Conference, (2007/4), World Scientific

<科研費等の取得・申請実績リスト>

【2007年度交付実績】

科研費: 基盤研究C「2次金利モデルに関連する数学の研究」直接経費 120万円

➤ 高村 ゆかり

<発表論文>

- 1)「2013年以降の地球温暖化防止の国際的枠組みをめぐる動向」(単著)
『国際商事法務』Vol. 35, No. 7, 911-918頁(社団法人 国際商事法研究所、2007年7月15日)
- 2)「環境問題と人間の安全保障 - とりわけ地球温暖化問題を素材として」(単著)
松井芳郎編『人間の安全保障と国際社会のガバナンス』219-240頁(日本評論社、2007年9月30日)
- 3)「温暖化防止をめぐる国際交渉のゆくえ」(単著) 『経済』No. 145、2007.10、65-76頁(新日本出版社、2007年10月1日)
- 4)「環境損害責任に関する国際的潮流」(単著) 『環境管理』Vol. 43, No. 11、29-36頁(社団法人 産業環境管理協会、2007年11月10日)
- 5)「気候変動問題への対処を目的とした次期国際枠組みに関する一考察」(亀山康子との共著) Discussion paper(2008年2月)
- 6)「地球温暖化交渉の10年 - その到達点と課題 -」(単著)(in press)
『環境と公害』37巻4号、頁(岩波書店、2008年4月25日)

<学会報告ほか>

- 1)「国連気候変動枠組条約その他の環境法の基本原則の分析」
第11回環境法政策学会 2007年度学術大会(2007年6月10日、上智大学)
- 2)「京都議定書の遵守制度の評価と2013年以降の将来枠組みにおける遵守制度」
環境経済・政策学会 2007年大会報告(2007年10月8日、滋賀大学)
- 3)「Market mechanism: a driving force for instituting and enforcing a new and effective global regulation for climate change?」 Presentation made at the Centre for Policy Research & New York University Workshop on Global Regulatory Governance “India, the South and the Shaping of Global administrative Law” (5-6 January 2008, Ambassador Hotel, New Delhi, India)
- 4)「The prospect of an international climate regime beyond 2012: From a Japanese perspective」
Presentation made at Climate Change and Perspectives for Japan-EU Cooperation organized by Ministry of Foreign Affairs, Japan and the Slovenian EU Council Presidency in cooperation with chamber of commerce and industry of Slovenia (January 23, 2008, Chamber of Commerce and Industry, Ljubljana, Slovenia)

➤ 西村 智朗

<科研費等の取得・申請実績リスト>

【2008年度申請実績】

科研費： 基盤研究C 「持続可能な発展」法の形成と展開 -環境レジームと市場メカニズムの相克と調整-
(交付確定)

➤ 酒井 達雄

<発表論文>

- 1) Tatsuo SAKAI, “Review and Prospects for Current Studies on Very High Cycle Fatigue of Metallic Materials

研究業績一覧 2007.4.1~2008.3.31

- 2) Tatsuo SAKAI, Qiang CHEN, Ayako UCHIYAMA, Akiyoshi NAKAGAWA and Toshiki OHNAKA, "A Study on Ultra-long Life Fatigue Characteristics of Maraging Steels with/without Aging Treatment in Rotating Bending", Proceedings of VHCF-4, (2007), pp.51-58.
- 3) Tatsuo SAKAI, Noriyasu OGUMA and Hisashi HARADA, "Strength Level Dependence of Very High Cycle Fatigue Property in Interior Inclusion-induced Fracture for Bearing Steel in Rotating Bending", Proceedings of VHCF-4, (2007), pp.129-136.
- 4) Tatsuo SAKAI, Yuki NAKAMURA and Hideo HIRANO, "Effect of Alumite Treatment on Ultra-long-life Fatigue Property for Aluminum Alloy in Rotating Bending", Proceedings of VHCF-4, (2007), pp.177-185.
- 5) 酒井達雄、小熊規泰、「超高サイクル疲労における軸受鋼の組織微細化」、検査技術、(2008年、2月)(掲載決定)
- 6) Tatsuo SAKAI, Tatsuya FURUSAWA, Ryohei TAKIZAWA, Noriyasu OGUMA, Hiroshi HOHJO and Hajime IKUNO, "Development of Multi-type High Efficiency Fatigue Testing Machines in Rotating Bending and Axial Loading", Proceedings of TMS Annual Meeting, (2008年、3月). (Accepted)

<解説>

- 1) 酒井達雄、「機械部品・製品の耐久信頼性評価に関する最近の動向」、日本試験機工業会会報誌「TEST」, Vol.6, (2008), pp.3-5.

<講演論文>

- 1) Tatsuo SAKAI, Tatsuya FURUSAWA, Ryohei TAKIZAWA, Noriyasu OGUMA, Yasuo OCHI, Kazuaki SHIOZAWA, Masaki NAKAJIMA and Takashi NAKAMURA, "Development of Economical and Efficient Fatigue Testing Machines for Multiple Specimens in Axial Loading and Rotating Bending", Proceedings of EcoDesign2007, (2007), CD-ROM.
- 2) Tatsuo SAKAI, Takashi KINOSHITA, Tatsuya FURUSAWA, Noriyasu OGUMA and Ryohei TAKIZAWA, "Ultra-long Life Fatigue Properties of SUJ2 and SNCM439 Steels in Axial Loading", Proceedings of EcoDesign2007, (2007), CD-ROM.
- 3) Tatsuo SAKAI, Ayako UCHIYAMA and Takayasu SAKAI, "Statistical Fatigue Property of SCM435 steels in Ultra-long Life Regime in Rotating Bending", Proceedings of EcoDesign2007, (2007), CD-ROM.

<科研費等の取得・申請実績リスト>

【2008年度申請実績】

- 1) 科研費：萌芽研究「万有引力によるクリーン・エネルギー創成技術の開発」487万円
- 2) 内藤泰春科学技術振興財団：「万有引力によるクリーンエネルギー創成技術の開発」198万円

➤ 小杉 隆信

<口頭発表>

- 1) 小杉隆信, 破局的現象出現の可能性を考慮した温暖化対策評価 - 事象の生起を確率論的に扱うアプローチ -. 第26回エネルギー・資源学会研究発表会, 2007年6月13日~14日, 東京

- 2) T. Kosugi, Carbon Dioxide Emissions Control Policy under Uncertainties of the Probability and Impact of Abrupt Climate Change Event. 6th International Conference on Environmental Informatics, November 21–23, 2007, Bangkok, Thailand.
- 3) T. Kosugi, Evaluating Environmental Trade-offs: Side Effects of Carbon Reduction. NAKÉ (The Netherlands Network of Economics) Research Day, October 26, 2007, Utrecht, The Netherlands.
- 4) T. Kosugi, Assessments of “Greenhouse Insurance”: A Review (tentative). 8th Ritsumeikan International Symposium on Stochastic Processes and Application to Mathematical Finance and 8th Columbia-Jafee Conference on Mathematical Finance, March 19–22, 2008, Kyoto, Japan.

<発表論文>

- 1) 小杉隆信, 「アスベスト問題への技術的対応策に関する検討」、政策科学、アスベスト特集号、99–108、2008.
- 2) 時松宏治、小杉隆信、黒沢厚志、伊坪徳宏、八木田浩史、坂上雅治: 「持続可能な発展」指標の将来推計方法に関するシミュレーション研究—Genuine SavingとWealthを対象として—、環境科学会誌、20(5)、327–345、2007.

<その他>

- 1) 温暖化対策としてのサマータイム制度の重要性と導入に向けた課題. 経済 Trend, 55 巻 4 号, 32–33 頁, 2007 年 4 月.
- 2) Takanobu Kosugi, Koji Tokimatsu, Hajime Yoshida: Evaluating, “new CO2 reduction technologies in Japan up to 2030”, Journal of Policy Science, Vol.2, 2008.

➤ 島田 幸司

<論文>

- 1) K.Shimada, Y.Tanaka, K.Gomi, Y.Matsuoka (2007): Developing a long-term local society design methodology towards a low-carbon economy: An application to Shiga Prefecture in Japan, Energy Policy, 35, pp.4688–4703.

➤ 寺脇 拓

<科研費等の取得・申請実績リスト>

【2008 年度申請実績】

科研費: 若手 A 「食品企業の社会的責任活動に対する消費者評価」

研究業績一覧 2007.4.1~2008.3.31

➤ 近本 智行

<論文>

- 1) Tomoyuki Chikamoto, Naoki Hashimoto : Study on Air-conditioning Control which considers Human Comfort corresponding to Thermal Environment Change from Outdoor to Indoor, Roomvent 2007, Helsinki, June

研究業績一覧 2007.4.1~2008.3.31

13th-15th, 2007, A4, 2007年6月

- 2) Tepei Nishimura, Tomoyuki Chikamoto : Study on Method for Forecasting Air-Conditioning Load and Control Strategy considering the Distribution in Rooms, Roomvent 2007, Helsinki, June 13th-15th, 2007, B3, 2007年6月

<講演論文>

- 1) 小角佳・近本智行・高村秀明 小型バッファ槽を用いた熱源の高効率化運転に関する研究、エネルギー・資源学会研究発表会、23-4、2007年6月
- 2) 武部敬輔・近本智行 : ヒートアイランド緩和による歩行者環境の改善に関する研究(その1)大阪御堂筋を対象とした街区デザインと CFD 解析、日本建築学会大会学術講演梗概集、環境工学 I、pp.731-732、2007年8月
- 3) 近本智行 : 快適性を考慮した空調制御に関する研究(その2)夏期における屋外から空調空間への熱環境変化に対応した人体の快適性に関する検討、日本建築学会大会学術講演梗概集、環境工学 II、pp.403-404、2007年8月
- 4) 橋本直樹・近本智行 : 劇場建築の空調性能と室内環境の検討(その6)移動に伴う温冷感実測による空調制御の検討、日本建築学会大会学術講演梗概集、環境工学 II、pp.477-478、2007年8月
- 5) 平尾吉晃・近本智行 : 吹き抜けを持つ戸建住宅の自然エネルギー利用に関する研究(その1)夏期におけるハイブリッド換気の有効性の検討、日本建築学会大会学術講演梗概集、環境工学 II、pp.813-814、2007年8月
- 6) 福田真太郎・近本智行 : 吹き抜けを持つ戸建住宅の自然エネルギー利用に関する研究(その2)窓高さの異なる吹き抜け空間の省エネルギー性能の検討、日本建築学会大会学術講演梗概集、環境工学 II、pp.815-816、2007年8月
- 7) 西野淳・近本智行・西村鉄平・橋本哲 : 居住域空調の温熱環境・省エネルギー性に関する研究、天井カセット方式ビル用マルチエアコンによる個人空調・不在エリア制御の検討、日本建築学会大会学術講演梗概集オーガナイズドセッション、環境工学 II、pp.1121-1124、2007年8月
- 8) 西村鉄平・近本智行 : 空間別・負荷要因別のエネルギー消費特性の分析(その3)空調方式・センサー位置が室内温熱環境に及ぼす影響、日本建築学会大会学術講演梗概集、環境工学 II、pp.1191-1192、2007年8月
- 9) 小角佳・近本智行・高村秀明 : 小型バッファ槽を用いた熱源の高効率化に関する研究(その1)システム概要と効果の試算、日本建築学会大会学術講演梗概集、環境工学 II、pp.1243-1244、2007年8月
- 10) 西村鉄平・近本智行 : 空間別・負荷要因別のエネルギー消費特性の分析(その4)各種空調方式におけるセンサー位置が室内温熱環境に及ぼす影響、空気調和・衛生工学会学術講演会講演論文集、pp.1259-1262、2007年9月
- 11) 近本智行・橋本直樹、快適性を考慮した空調制御に関する研究(その3)夏期における屋外からの熱環境変化に対応した人体の快適性とホールへの経路空間での検証、空気調和・衛生工学会学術講演会講演論文集、pp.2057-2060、2007年9月
- 12) 武部敬輔・近本智行 : ヒートアイランド緩和による歩行者環境の改善に関する研究(その2)大阪御堂筋を対象とした街区デザインと被験者実測、CFD 解析による検討、空気調和・衛生工学会学術講演会講演論

文集、pp.2305-2308、2007年9月

- 13) Tomoyuki Chikamoto : Construction of Energy Performance Analysis Technique according to Architectural Design, The 7th International Energy Agency Annex 44 Forum, Hong Kong, 2007年10月

<科研費等の取得・申請実績リスト>

【2007年度交付実績】

科研費 基盤研究(B)「建築空間別・要因別の環境・エネルギー性能分析手法の研究」 260万円

【2008年度申請実績】

科研費 萌芽研究「小型バッファ槽を用いた熱源の高効率化運転制御技術の構築と検証」 500万円

科研費 基盤研究 B「環境・エネルギー性能分析手法と生理反応を応用した快適・省エネ制御手法の構築」
2000万円

➤ 吉原 福全

<講演論文>

- 1) 孔, 中西, 植田, 吉原, “革新的次世代低公害車総合技術開発, - ECRによるPM, NO_x同時低減システム(第2報)”, 自動車技術会公園論文集, No.87-07 (2007), pp.11-14
- 2) 飯田, 孔, 中西, 吉原, 浅野, 井上, “革新的次世代低公害車総合技術開発, - ECRによるPM, NO_x同時低減システム(第3報)”, 自動車技術会公園論文集, No.114-07 (2007), pp.1-4
- 3) 岡崎, 吉原, “分子軌道法によるNO_x吸蔵還元触媒の機能解明”, 機械学会関西支部講演論文集, (2007-3)
- 4) 津田, 孔, 中西, 飯田, 植田, 吉原, “ECRによるPM, NO_x同時低減システム”, 機械学会関西支部講演論文集, (2007-3)

<特許>

- 1) 吉原, 中西 “電池セル、燃料電池装置、これを備えた車両及び熱電供給装置、並びに燃料電池作動方法”, PCT/JP, 2007/51689

<科研費等の取得・申請実績リスト>

【2007年度実績】

- 1) クイックスタートを可能とする円筒形固体電解質セルの開発, JST シーズ顕在化事業, 平成 18~19年, 8,000千円
- 2) 革新的後処理システムの研究開発, NEDO 革新的次世代低公害車総合技術開発, 平成 19年, 81,000千円

➤ 建山 和由

<論文>査読有り

- 1) K. Tateyama, S. Itoh, H. Maehara : Underground Space Construction by Explosive Loading in a Borehole, Materials Science Forum, Vol. 566, pp.185-190, 2008.

研究業績一覧 2007.4.1~2008.3.31

- 2) 芦田恵樹, 清水智美, 建山和由: 太陽光併用型植物工場における光の効率的な利用システムの検討, 植物環境工学(J.SHITA), Vol.19, No.2, pp.59-65, 2007/06

<総説>

- 1) 建山和由: 今後の建設の機械化~試行的ロードマップ作り~, 建設の施工企画, No.695, pp.6-12, 2008/01
2) 建山和由: 建設施工における情報の役割と活用方法, 基礎工, Vol.35, No.9, 54/9, pp.6-9, 2007/09.

<科研費等の取得・申請実績リスト>

【2008 年度申請実績】

基盤研究 B 環境親和型植物工場の実用モデル構築 19,218 千円

➤ 天野 耕二

<論文>

- 1) 吉川直樹・天野耕二・島田幸司: 「日本の青果物消費に伴う環境負荷とその削減ポテンシャルに関する評価」, 環境システム研究論文集, Vol.35, pp.499-509, 2007.
2) 天野耕二・曾和朋弘: 「中間処理方法の組み合わせに着目した一般廃棄物処理システムの包括的評価」, 土木学会論文集G, Vol. 63, No. 4, pp.391-402, 2007.
3) 高野昌宏・天野耕二: 「滋賀県の汚水処理システムを対象とした環境効率の評価」, 日本 LCA 学会誌, Vol. 4, No. 1, pp.59-66, 2008.
4) 天野耕二・宮川征樹: 「産業廃棄物の再資源化・有効利用による環境負荷量削減ポテンシャルの評価」, 土木学会論文集G, Vol. 64, No. 1, 2008(印刷中).

<講演論文>

- 1) 田丸裕昭・天野耕二: 「緊急時対応と環境負荷低減を目的とした分散型エネルギー供給システムの構築と総合評価」, 第 35 回環境システム研究論文発表会講演集, pp.63-68, 2007.
2) 井上陽佳・天野 耕二・田中 真人: 「改質硫黄固化体によるセメントコンクリート代替に伴う二酸化炭素排出削減効果」, 第 35 回環境システム研究論文発表会講演集, pp.245-250, 2007.

<科研費等の取得・申請実績リスト>

【2007 年度交付実績】

科研費 基盤研究(C)「持続的な森林資源循環に基づいたカーボンニュートラル社会構築に関する基礎的研究」195万円

➤ 仲上 健一

<学術図書>

- 1) 「サステナビリティ学構築と政策科学研究」, 『政策科学への挑戦』, pp10~31 日本経済評論社, 2008 年 3 月

<論文>

- 1) 「持続可能な水資源環境管理とウォーター・セキュリティ」 仲上健一、Khin Myat Nwe (立命館アジア太平

洋大学), 水資源環境研究 第 20 号、水資源環境学会、2008 年 3 月

- 2) 国際学会発表 “Integrated Water Resources Management & Sustainable Development in China” The 12th Academic Exchange Seminar between Shanghai Jiao Tong University and Osaka University (第 12 回上海交通大学—大阪大学学術交流セミナー)、2007 年 10 月 29 日、中国上海交通大学

<シンポジウム>

- 1) 「地球持続戦略を支える政策情報学」(コーディネーター)、政策情報学会第 3 回研究大会、2007 年 11 月 17 日、立命館大学

<科研費等の取得・申請実績リスト>

【2007 年度交付実績】

環境省・科研費：「バイオマス利活用に関する地域環境の診断手法及び環境効率評価手法の研究」
(K1916) 449 万円(初年度)

【2008 年度申請実績】

科研費：基盤研究 B 「気候変動による水資源環境影響評価分析と統合的水管理」(交付確定)
環境省・地球環境研究総合推進費：分担者「都市・農村の地域連携を基礎とした低炭素社会のエコデザイン」(交付確定)

➤ 竹濱 朝美

<論文>

- 1) 竹濱朝美、論文、単著、「温室効果ガス排出削減の道すじ：世界排出量が減少傾向に転じるべき期限とその緊急性」、『日本の科学者』、2007 年 12 月号、pp.10-15。
2) 竹濱朝美、論文、単著、「気候変動研究とサイエンス・ジャーナリズムの役割：英国マス・メディアが伝える Climate Change」、『日本の科学者』、2007 年 4 月、42 巻 4 号、pp.30-35。

<学会発表> (国内)

- 1) 竹濱朝美、学会発表、単独、「気候変動の現状と消費部門への再生可能エネルギー促進」、日本消費経済学会 32 回大会、2007 年 5 月 18 日、中央学院大学。
2) 竹濱朝美、学会発表、単独、「ドイツ EEG 法による太陽光発電の普及と太陽光電池産業の拡大」、日本流通学会、21 回大会、2007 年 10 月 28 日、酪農学園大学。
3) 竹濱朝美、学会発表、単独、「ドイツ EEG 法による太陽光発電の普及と太陽光電池産業の拡大」、日本消費経済学会西日本大会、2007 年 12 月 9 日、松山東雲短期大学。

<科研費等の取得・申請実績リスト>

【2008 年度申請実績】

科研費：基盤研究 C 「家庭部門における太陽光発電普及政策の環境効果と経済効果に関する研究」
(交付確定)

➤ **中島 淳**

＜科研費等の取得・申請実績リスト＞

【2008 年度申請実績】

科研費： 基盤研究 C 「鉄ハイブリッド型砒素除去フィルターの適正化と持続化に関する研究」（交付確定）

➤ **大倉 三和**

＜学会発表＞

- 1) 「統合的水資源管理の政策文脈における国際河川問題：バングラデシュの事例から」政策情報学会研究第3回研究大会（2007 年 11 月 17 日 於：立命館大学朱雀キャンパス）

＜科研費等の取得・申請実績リスト＞

【2008 年度申請実績】

科研費： 基盤 C 「南アジアの越境水資源をめぐるガバナンスと人間の安全保障」

➤ **佐和 達児**

＜学会発表＞

- 1) 「持続可能な社会に向けての芸術文化の担う役割とは」（2007 年9月 日本国際文化学会 2007 年度臨時秋季大会）
- 2) 「持続可能な社会構築に向けての文化芸術戦略」（2007 年 11 月政策情報学会第三回研究大会）

＜科研費等の取得・申請実績リスト＞

【2008 年度申請実績】

科研費： 萌芽研究 「高度成長期の日本と現在の中国における環境／社会と文化芸術の関係についての比較分析」

➤ **村山 徹**

＜論文＞

- 1) 「中国 16 都市における持続可能な都市空間-人口と土地利用の偏在配分による地域間格差の分析」立命館大学地域情報研究センター『公共情報論考 V』2007 年, pp53-80
- 2) 「中国の持続可能な発展に関するデータベースの構造化」立命館大学地域情報研究センター『公共情報論考 V』2007 年, pp119-136

➤ **田中 善紀**

＜論文＞

- 1) 「変容する政府系草の根組織：シンガポールにおける国家・市民社会関係」『市民社会の比較政治学』pp.277-301 慶応義塾大学出版会 2007

➤ 加藤 久明

<論文>

- 1) “アウトカムに視座を置いた非営利組織活動研究:活動参加者の「学習」と「価値創造」に主眼を置いた概念枠組みに関する一考察”. 千葉商大論叢. Vol.45, No.1. pp.45-68(2007)
- 2) “糸魚川市における中心市街地活性化への取組み:地方都市再生の取組み”. 国府台経済研究(千葉商科大学経済研究所). Vol.19, No.2,pp.135-155(2008)